

## JR 北海道宗谷線存続を求める意見書

JR 北海道では、安全投資などで厳しい経営状況であることを理由として、輸送密度（1キロ当たりの1日平均輸送人員）が200人以上2000人未満は単独維持困難な線区、200人未満は鉄道廃止を伴うバス転換が検討されていました。

こうした中11月18日には、「JR 単独では維持困難な線区」として『10 路線 13 区間』の具体的な線区が報道され、宗谷本線のうち名寄～稚内間も単独維持困難な線区に含まれ、駅廃止や列車見直し、運賃値上げ、利用促進策、上下分離などを軸に協議を開始するとなりました。

JR は名寄市をはじめとする北北海道にとって、通勤・通学・通院など地域住民の足であるとともに、観光客や農産物の物流など、地域経済にとってかかせない公共交通機関であり、路線の存続がなければ地域の衰退に拍車がかかることなどが懸念されます。

事前の宗谷本線沿線自治体と JR との意見交換会で JR は「廃止ありきではない」とする一方で鉄道施設の保有や維持、修繕を沿線自治体に担ってもらう「上下分離方式」は存続に向けた一つの手段であると説明したが、地元自治体では到底受け入れることができる状況ではないのが実態です。

そもそも、JR 北海道の経営が困難になった最大の原因は、国鉄の分割民営化時に設立した経営安定基金の利回り運用が低くなったことであり、国策の失敗と言わざるを得ません。

よって、国及び政府が JR 北海道に対し、宗谷線存続のための財政支援を求めるものです。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。

平成 28 年 12 月 16 日

北海道名寄市議会

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
国土交通大臣

宛